opusdei.org

属人区長の書簡 (2009年5月)

「今月は、体も霊魂も共に被 昇天された方、イエスの御られ であり、私たちの母であらび る聖母、『主の復活の喜びも 栄光に包まれた方』を黙想し 栄光にしまれた方』を黙想し ます。」と属人区長は今月の 手紙で述べます。

2009/05/09

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 今年の5月は、すべて復活節の内に 過ごします。天においても地におい ても、教会はイエス・キリストの復 活の喜びにわき返っています。私た ち皆がすでに味わっているものが、 この gaudium cum pace 平和と喜び なのです。

当然のことながら、今月は、体も霊 魂も共に被昇天された方、イエスの 御母であり、私たちの母であられる 聖母を黙想します。「主の復活の喜 びと栄光に包まれた方に注目しま しょう。十字架の下で流された涙 は、もはや奪われることのない微笑 みに取って代わりました。と同時 に、私たちに対する母としての憐れ みは、途絶えることなく続いていま す。このことは、歴史の流れにおけ るおとめマリアの時官を得た介入に よって証明されており、彼女への揺 るぎない信頼を生み出しています。 〈聖母のご保護を求める祈り〉や

〈憐れみ深きおとめマリアよ〉の祈

りがそれをよく表しています。マリアは、その子ども一人ひとりを愛るの子ども一人ひとおけるのますが、ご受難における子どもに苦しみに遭遇している子どもに配慮されます。彼らをキリストの望みによって、すべてのサンでもとなったから、唯々それゆえなのです。」[i]

教皇様のこの言葉を黙想し、聖母に 対する信心を深め、改めて輝かせま しょう。その動機は明白です。マリ アは神の御母、そして私たちの母な のですから。それゆえ、教会の教導 職によって提示された神の啓示に しっかりと根をおろし、活き活きと した愛に満ちたマリア信心を培うこ とが必要です。愛するドン・アルバ 口が1987年のある手紙でそれを思い 起こさせてくださいました。マリア の母としての使命は神の明確なご計 画に応えるものであることを考察 し、こう言われました。「キリスト

何と偉大な真理でしょう。キリスト者は、聖なる教会という大きなの兄の表であって、そこにおける多くのおりてあった。キリストでありてあって、そこにおける多でありまりである。という御母も常に入れます。イエスは、の全部で辿りつように歩むでもできないます。そして聖母と聖人であるが、神とすべての天使と聖人

と共に過ごす永遠の命という目標に 達することができるように、この世 の旅路に付き添い、励ましてくださ います。

今月は、聖ホセマリアがオプス・デ イの子どもたちと他の人々に勧めて いた招きに従って、数多くの人々 が、イエスとの出会いを新たにし、 主にいっそうよく似た者になりたい

多くの場合、この巡礼は自分の町や 近くの町で行われるでしょう。場合 によっては、例えば病人や障害者の 場合、どうしても家を出るう。 でともあるでしまう。 でともあるであるである であるがかも、 というのもっとができまちらこちらと移動では、 ではなく、 ではなく、 ではなく、 それゆえイエスのもっと近くにいる ことを望んで、内的な旅をすること だからです。

ヨハネ・パウロ二世は、世界に点在 する聖母の巡礼地において、聖母の 現存が特に際立っていることを強調 されました。そのような場所が数え 切れないほどあることは周知のこと です。神の御母の美しい画像が取り 付けられている小聖堂や町の通りの 飾りから、聖母に捧げられた聖堂や 教会に到るまで、聖母は実に様々な 形で多く見られます。けれども、 人々が聖母の現存を特別に活き活き と感じる場所は明らかです。それ は、マリアの巡礼地です。「すべて のこのような場所では、十字架につ けられた主の特別な遺言が素晴らし い形で実現されています。この場所 で人は、マリアを託され、信頼され ていることを実感し、自分の母にす るように聖母に馳せよります。そし て、心を打ち明け、あらゆることを

申し上げるのです。こうして〈母を 自分の家に引き取る〉、つまり、自 分のすべての問題に関わっていただ くのです。」[v]

信者は、そこで「信仰とそれを深める手段」を探し求め、信仰を養うためにマリアにより頼みます。「教会の秘跡を探し、ことに神との和解と、ご聖体という内的糧を求めます。そして再び力を取り戻し、神の御母であり私たちの母であられる聖母に感謝するのです。」[vi]

皆がこのことを経験しました。 割す 者が教えたような祈りと償いている で聖母を訪問した後、でしまがいている でに感じないのでがいのでがいる がある人を神に近づかせたいのは ある人を神に近がかけれいのかなが また、ある人が高潔な耐り、の またに抵抗している おきに抵抗している に抵抗している でとを経験した ではないでいる に抵抗している に抵抗している ではないでいる に抵抗している に抵抗している にしている にしたる

かった人がいるでしょうか。イエ ス・キリストは、ご自分の恩恵がマ リアを通して私たちに届くようお望 みになりました。ですから、「子ど もたちが愛を込めて聖母のために建 立した巡礼地を訪れることに無関心 であってはなりません。愛を込めて 挨拶することなしに聖母像の前を通 り過ぎるほど無関心であってはなり ません。聖なるロザリオという愛の セレナーデー信仰の歌であり、マリ アを通してイエスにまみえる魂の祝 婚歌-を歌うことなしに、無為に時 を過ごすような無関心であってはな らないのです。」[vii] 考えてみま しょう。聖母のご絵やご像をより良 く眺めるために何ができるでしょう か。一つひとつの〈聖母マリアへの 祈り〉〈サルベ〉や〈アレルヤの祈 り〉をどのように味わっています か。誰にマリアの愛とマリアへの愛 について話そうと思っているので しょうか。

このような様々なマリア信心が、5 月を形作り、彩りを与えています。 本質的なことは、聖母が示される小 道を通って、イエス・キリストにま すます近づくことです。聖母との出 会いの一つひとつは、〈キリストを 眺めるよう〉にという招きに他なり ません。ベネディクト十六世は、あ るマリア巡礼地でこう述べられまし た。「何かを探している人にとって は、この招きはごく自然にひとつの 願いに変わっていきます。それは私 たちに子としてのキリストを与えて くださったマリアだけに差し向けら れる〈イエスをお示し下さい〉とい う願いです。今日、心を込めてこの ように祈りましょう。そしてこれか らも内的に贖い主のみ顔を求めて祈 り続けましょう。〈イエスをお示し 下さい〉。マリアは応えてください ます。何よりもまず、主を幼子とし て示してくださいます。神は私たち のために小さな子どもになられたの です。| |viii|

聖ホセマリアが1930年代に書かれた ことを今一度、じっくり考えること にしましょう。それを読んで多くの 人が、日常生活における観想の小道 に導かれました。「偉大なものにな りたいのなら、まず小さくなりなさ い。(…)道の終わりには、我を忘 れてイエス様を愛する自分に気付く ことでしょう。しかし、道の始まり は、マリア様への信頼しきった愛で なければなりません。聖母を愛した いのですか。それなら親しくなりな さい。どのようにすれば親しくなれ るのでしょうか。ロザリオをよく唱 えることによって。」[ix]

ロザリオの神秘を内的に注意深く思い巡らし、祈ることを通して、私たちはイエスとマリアの超自然的な生活を次々と目の当たりにすることができます。そうすると、天国にががっか道にしっかりと留まることがあり、必要ならば進路を正し、周りの人たちに永遠の幸せに導く確

実な近道を教えることができます。神秘の場面を感嘆しつつ眺めると、私たちは「どのようにして人類が、主の謙遜な召し使いのfiat(そうなりますように)によって神に立ち戻り始め、真に聖なる方としての栄光という終着点を見出せるのか」[x]を理解できるのです。

この他にも、聖母への愛を細やかに 表す方法があります。聖ホセマリア があらゆるところに広めた、深く愛 している人特有のやり方に再び目を 向けたいと思います。それは、 日々、通りや広場で、あるいは教会 内や家の部屋などで、目にする聖母 像に愛のこもったまなざしを向け、 子としての愛情をごく個人的に表す 射祷を唱えることです。創立者はい つもこのようにしておられ、特に什 事や生活の場にあった聖母像へのま なざしには、深い愛情がこめられて いました。それは子としての愛情の 表れであり、奥深い内的生活を反映 したものでした。つまり、状況によって、痛みをともなったものであったり、あるいは感謝であったり、嘆願であったりしましたが、いつもそのまなざしには真実の愛情の表明でした。

また、愛する人の写真を持ち歩くよ うに、聖母のご絵を財布やポケット に忍ばせておくことも勧めました。 それは、聖母の現存を保ち、愛情を 込めて誉め称えるためです。創立者 は、聖母のご絵を世界中に広げるた めに貢献できたことを喜び、こう 語っていました。「オプス・デイで は、あらゆるところに数えきれない ほどの聖母のご絵やご像を設置し、 五大陸でマリア信心の実行を推進し て、絶えず聖母への愛情を表明しま した。ヨーロッパやアジア、アフリ カやアメリカ、オセアニアで、若者 たちが自由に近づくように - 自由で なければ価値がありませんから - 勧 めてきました。

しかし、これはごく自然なことです。私たちの母でもある神の御母を、どうして愛さずにおられまるしたちにはそうするとが必要なのです。私にとってはととが必ず。暗闇におびえて、ママたびまりに、私はたびたりに、お母との中で嘆願します。お母さん!私を見捨てないでください、と。

内的生活とはこういうものです。自然で単純です。私には一人の人として生きる以外の生き方はできません。そして神のみ前で生きるのです。つまり永遠なるお方のみ前で、何の価値もない被造物として生きるのです。| [xi]

典礼が聖母に当てはめている詩編の言葉があります。ベネディクト十六世はこう述べられました。「詩編作者は、キリストの御母と信者とを母親としての結びつける絆を遙かに垣間見、おとめマリアに関して予言し

ています。〈富んでいる人々が、あ なたの微笑みを求める〉(詩編 45.13) と。こうして、キリスト信者 は、霊感を受けた聖書の言葉に促さ れて、聖母の微笑みを捜し求めまし た。中世の芸術家たちはこの聖母の 微笑みを表現し、それを高く評価し ました。マリアはすべての人に微笑 みかけますが、苦しむ人々を特別に 顧みられます。彼らが聖母に慰めら れ、安らぎを得るためです。マリア の微笑み求めることは、信心家の感 傷でも時代遅れのことでもありませ ん。それは何よりも聖母とのつなが りを活き活きと表す、極めて人間的 なことなのです。キリストが聖母を 私たちに母としてお与えになったの ですから。| [xii]

精神的にあるいは身体的に苦しんでいるすべての人のために聖母に願いましょう。病人や、孤独感や疎外感に陥っている人、天災に遭遇している人、迫害され様々な暴力を受けて

いる人など、誰をも私たちの祈りか ら除外してはなりません。

常に必要ですから毎月思い起こすよ う促していることですが、教皇様と そのご意向のために特別に祈りま しょう。今は、今月の8日から15日 までの聖地旅行の実りのために祈り ましょう。また23日 - 多くの所で主 のご昇天を祝う24日の前晩 - に司祭 叙階の秘跡を受ける属人区の人たち のためにも祈ってください。5月の 最終日は聖霊降臨の大祝日です。こ の日に、教会と世界に聖霊の賜がふ んだんにもたらされるように、そし てすべての人がそれを受ける準備を 整えるように、聖霊に願いましょ う。

つい先日、日本と台湾への旅行から 戻りました。そこにおいても、オプス・デイの精神があらゆる人種や文 化の人々の中に根付いていることを 再び目にすることができました。こ

の両国において、すべての子どもた ちに付き添われていること、そして 皆と一緒に祈っていることを実感で きたことに加え、さらに二つの特別 な喜びの機会を得ました。一つは、 長崎で日本の殉教者たちを崇敬する 巡礼地、大浦を訪問できたことで す。激しい迫害に屈することなく信 仰を守り通した人々の思い出が活き 活きと愛情深く語り継がれていまし た。一方台湾では、ちょうど巡礼の 聖母を安置し、聖体賛美式を行って いた教会を訪れ、聖体顕示と替美式 に参列できました。教会は信者で一 杯でした。この二つの場所で、マリ アと共に、イエスを世界の隅々にま でもたらさなければならないことを 容易に思い起こすことができまし た。私と共に、あらゆる善の源であ る至聖三位一体と、すべての恩恵の 仲介者である聖母に、感謝を捧げて ください。また、17日が列福記念日 である聖ホセマリアに、主の忠実な 道具として、聖性と教えと愛徳とを

地上一帯にふんだんに蒔き広めてく ださったことに感謝しましょう。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2009年5月1日

[i] ベネディクト十六世、2008年9月 15日ルルドでの説教

[ii] ドン・アルバロ、1987年5月31日 手紙8

[iii] ローマ8,29参照

[iv] 聖ホセマリア、『知識の香』139

[v] ヨハネ・パウロ二世、1982年5月 13日ファチマでの説教 [vi] ヨハネ・パウロ二世、1980年7 月4日アパレシーダでの説教

[vii] 聖ホセマリア、『ピラールの聖母』。1976年サラゴサ『Libro de Aragón』に収録されている文章。

[viii] ベネディクト十六世、2007年9 月8日マリアゼルでの説教

<u>[ix]</u> 聖ホセマリア、『聖なるロザリ オ』序

[x] パウロ六世、1974年2月2日使徒 的勧告Marialis cultus, n.28.

<u>[xi]</u> 聖ホセマリア、1974年4月7日団 欒のメモ

[xii] ベネディクト十六世、2008年9 月15日ルルドでの説教 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2009nian-5yue/ (2025/12/11)